

小川 一眞と内国勸業博覧会

本市出身の写真師小川一眞は明治・大正期の写真や出版、印刷の分野で数多くの業績を残し、写真師で唯一帝室技芸員に任命されるなど、日本の写真界の頂点を極めました。写真師としてのキャリアは明治8年(1875)、16歳のとき熊谷の写真師吉原秀雄のもとで働いたことに始まりますが、早くも2年後には群馬県富岡町(現・富岡市)に自身の写真館を開業しました。

当時の富岡町は、明治5年(1872)に官営富岡製糸場が開業したことにより、活況を呈していました。一眞はそこに目をつけて富岡に進出したと考えられます。写真館の場所も製糸場の正門を出て100メートルほどといったところの路地を右に曲がった先にあります。

さて、写真界の中で名声をあげることを望んでいた一眞は、明治14年(1881)3月に東京上野公園で開催される第2回内国勸業博覧会に写真の出品することとしました。題材に選んだのは群馬県の妙義山です。大変な苦勞をして妙義山の撮影、現像、焼付を行い、額装して博覧会事務局へ



原田清太郎宛小川一眞書簡(郷土博物館蔵)

写真を送りました。この資料は一眞が兄の原田清太郎に送った手紙で、撮影の経緯などが記されています。一眞にとってはかなりの自信作だったようで、この景色は誰も撮影したことはなく、私の努力で大変素晴らしい写真に仕上がったと述べています。

しかし、結果は一眞の思う通りにはいきませんでした。博覧会は品目ごとに表彰がなされ、出品した写真師38人のうち受賞者は有効賞牌一等1人、二等2人、三等2人、褒状9人の14人で、一眞は選外となりました。博覧会の報告書に書かれた講評も、受賞者にならなかったため、個人の評価は記されず、他の出品者とともに「その他全国各地の風景を写す者数多あれども五、六葉に止まる」という記載があるのみでした。

この結果は一眞にとって写真界での立場を認識させることとなりました。これから写真師として世に出ていくためには、他に抜kindでた経験と実績を積み必要を痛感させたのでしよう。このことが年内に富岡の写真館をたたくで、翌年にはアメリカへ留学することになったが、いくのです。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)

はじめまして



令和4年10月生まれのお子さんを募集します

- 8月1日(火)～31日(木)に電話またはEメールで広報広聴課(内線322) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、9月1日(金)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和4年8月生まれのおともだち



吉田 美つき
令和4年8月3日生まれ
父・哲也さん 母・早苗さん
「みーちゃん笑顔が大好き!!」



下向 滯ちゃん(緑町)
令和4年8月1日生まれ
父・拓さん 母・彩さん
「生まれてきてくれてありがとう♡」



小河原 碧莉ちゃん(忍)
令和4年8月12日生まれ
父・信貴さん 母・由利さん
「ここにこあいちゃん大好き!」



田原 茉紘ちゃん(荒木)
令和4年8月12日生まれ
父・孝幸さん 母・桂子さん
「明るく元気な子に育って下さいね」



鈴木 蘭ちゃん(持田)
令和4年8月11日生まれ
父・祐馬さん 母・玲奈さん
「かわいい蘭ちゃん、毎日幸せをありがとう♡」



清水 凧彩ちゃん(藤原町)
令和4年8月3日生まれ
父・凌次さん 母・愛里さん
「なーたん大好きよ♡」

今月の表紙

令和元年に多くの被害をもたらした台風第19号を教訓に、市ではさまざまな治水対策を行っています。

取り組みの一つである「校庭貯留事業」では、浸水被害を受けた地域の小学校を対象に、校庭周囲に小堤を設けるなど貯留施設としての整備を進めています。



行田市の
マイナンバーカード交付率
70.8%
(7月1日現在)



詳細は総務省ホームページ